

第39回与謝野町地域公共交通会議 会議報告書

■日時 令和5年1月30日（月）午前10時00分から午前11時20分まで

■場所 加悦保健センター2階 農事研修室

■出席者

山添 藤真	稲留 健一郎	村尾 俊道	笹岡 洋一	長島 誠
西村 良久	小塚 敏郎	小西 正芳	河邊 時寛	渋谷 卓司
中田 麻由美	林 忠広	井崎 智満	川本 康博	西村 之宏
松尾 伸一郎	古田 良明	植田 哲史	小池 大介	田辺 茂雄
市田 桂一				

■代理出席者

佐々木 貴昭	白木 智章	岡本 重幸
--------	-------	-------

■欠席者

なし

■事務局

小谷 企財主幹	本田 企財主査
---------	---------

会議の要点

- 与謝野町の公共交通体系について前回会議の振り返りの後、与謝野町を目指すべき交通体系について議論。様々な移動手段にて互いに補完し合う交通体系を構築し、持続性、利便性の向上を目指す方向性（案）のとおり進めることを承認。
- 令和4年度コミュニティバスひまわりの運行実績、令和4年度事業評価について、事務局提案のとおり承認。
- 社会福祉協議会で実施されている福祉有償運送事業について、国の登録団体更新について、令和4年度実績を報告し、更新について事務局案のとおり承認。

■会議内容

開会

配付資料の確認、出席状況の報告

1. 会長あいさつ（割愛）

2. 議題

（1）持続可能な公共交通の実現に向けて

- 資料1について事務局から前回の会議での議論を踏まえ説明し、今後の方向性（案）について委員から意見を求め、案のとおり進めることで承認。委員からの発言は以下のとおり。

委員：それでは私の方から若干地域での動きにつきまして紹介をさせていただきたいと思います。先ほどの説明の中でこのスライドの9ページのところで、地域の動きで地域内移動の課題意識の芽生えというようなご紹介がありましたが、これにつきまして説明させていただきます。これまでからこの加悦地域の桑飼地区というところにつきましては、明石、香河、温江の3

区長で地区内交通、地区内移動につきまして、問題意識を共有してきておりました、今後の動きの中で移動支援について地区としての役割を果たすことが必要となった際には、この3地区で協力関係を築いていくということを確認しております。ここからは先ほどの説明を聞きました中での意見なんですけども、14 ページで、この複数の運行主体による交通体系の構築を目指すということで交通事業者プラス地域住民というようなお話がありましたけども、こういった交通体系を構築していけるようであれば、交通事業者の運転手不足ということも解決できるということで、私も前々から思っていました、いわゆる地区交通事業者でカバーできないところは地域でカバーしていくと、もうこれしかないんだろうなと思っておりましたが、こういったことが今回提案されてきておりますので、このような考えが進められたらありがたいというふうに思います。ただ地域住民に、この公共交通の担い手を確保できるかどうかということにつきましては、まだまだ地域の中に入って話をしておりますので、不安な面もありますが地区としましても積極的に協力していきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

村尾委員：そうしましたら少しお話をさせていただきたいと思います。需要に応じた、交通サービスの実現というこれはこれで正しいと思うのですが、皆さんご案内の通り、人口減少は止まりません。高齢化はこのまま進んでいくと思います。そして何よりも交通需要だけで言うと、若者の交通需要というのはどんどん縮小傾向です。なぜかといいますと、スマートフォン一つで、あるいはパソコン一つで足りてしまうような社会で、若い人たちでも都会でも外へ出なくなってきました。そういう意味で需要に応じてということだけに着目してしまうと、その先の事情はどんどんどんどん小さくいく方向にしかありません。そんな中で本当に豊かな社会ってなんだろう。地域の人たちがもっと触れ合えるような、どうやって作っていったらいいんだろうっていうときに、人がリアルに移動できるっていう存在はすごく大事になってくるはずですよ。よくこれをクロスセクター効果っていう言い方があるんですけど、公共交通がなくなると人がどんどん移動しなくなって、医療費がどんどん高くなってくる。あるいは地域で買い物をしなくなるようなことで、地産地消、地域の消費額がどんどん小さくなってくる。結局地域にとって非常にデメリットだから、たとえ赤字であっても、こういった公共交通のインフラがあるっていうことが大事だと言うことが今言われています。ですから計画を作るときというのは今のことだけを考えるのではなくて少し先、5年先10年先どうなるんだろうということを見据えながら、なおかつどんな地域社会にしていきたいのかっていうことをまず第一義的に考えて、それに必要なサービスなんだろうっていうふうに考えていくことはきっと大事になってくる。今まで生活交通というものの中に議論がされていますし、この会議自体はそれが正しいというふうに思いますけれども、今ちょうど町の方でも総合計画の基本計画の見直しをされているようですけれども、ここの1丁目1番地が雇用の確保っていうところ、あるいは観光とか交流が1丁目1番地になってますね。このときにやっぱり働く場所、あるいは昼間にどんな業務活動があるのかこういったところも一緒になって考えないと、生活交通だけではなかなか交通というものが維持しにくい時代になってくる。ですから昼間で働いている人たち業務活動、それから物の移動といったものまで、いよいよ一緒になって考えていかないといけない時代になってきた。これまでは、生活交通で高齢者の移動、いわゆる交通弱者と言われる人たちの昼間の移動だけに着目して議論をしてきたんですけど、それだけでは足らなくなってきた。だから先ほど加悦の自治会の方ではみんなでなんとか協力していこうというお話がありましたけども、いろんな非営利の活動も人たちと一緒にやって、既存の交通事業者の人たちといろんな需要を束ねていく。これが本当に大事な時代になってきます。

稲留委員：今日は到着が遅れまして申し訳ございません。私からは現段階でコメントということで、今回大きな方向性として、交通事業者、今までずっと何とか交通事業者で交通公共交通になっていこうということで事務局をはじめ、皆様にこれまでご検討をいただいておりますけども、やっぱり運転手さんが少なかったりだとかというところで、事業者だけでは交通全体をカバーするのは困難だということで今回提案になっているのだろうと思います。方向性としては、交通事業者と地域の方々が協力してネットワークを作っていくというような、今回方向性を打ち出されて、これは非常に大きな転換だと思っております。一方で加悦の区長さんからご発言ありましたけども、これから地域でやると口で言うのは簡単ですけども、な

かなかこれを実際に運転士を確保できるかどうか、持続できるかという、一方で難しいというのは重々考えているところがございますので、互いに補完し合うというところは非常に方向性としてはいいと思うけれども、なるべく、交通事業者の前で言にくいんですけど、タクシー事業者なり、バス事業者なり使い倒した上で足りない部分を、住民で何とかカバーしていくというのは、そういった方向性がいいんじゃないかなというふうに今お話を伺って思いました。現段階では以上でございます。

会 長:その他、皆様いかがでしょうか？よろしいですか。それではただいま議題となっております(1) 持続可能な公共交通の実現に向けてという点でございますが、取組1につきましては、事務局提案の方向性案、つまり複数の運行主体による公共交通体系の構築を目指していこうとする方向の通り承認することとし、取組につきましても先ほど村尾委員からもありましたようなご意見も踏まえながら、与謝野町の公共交通計画について、事務局にて提案を進めていくということではよろしいのでしょうか。異議ございませんでしょうか？

<異議なし>

会 長:ありがとうございます。それでは説明の通り承認いただいたものといたしまして、次回の会議において、事務局で計画案を作成させていただいたものをお示しさせていただきたいと思いません。

(2) コミュニティバスひまわり運行実績及び事業評価について

【概要】

○資料2について事務局から説明。実績報告及び事業評価については国の申請様式のとおりで、内容について承認いただいた。委員からの意見はなし。

(3) 福祉有償運送事業登録団体の更新承認について

【概要】

○資料3について中田委員から説明。内容について承認いただいた。委員からの意見はなし。

4. その他

委 員:気がついた点を発言させていただく。一つは岩屋を運行するコミュニティバスの利用者が3分の2に減ったという話を聞きましたけれども、それはなぜなのかというのはやはりある程度調べる必要があると思いました。また先ほど社協から報告がありました福祉有償運送について、これにつきましては私もずいぶん高齢ですけれども、高齢者の中にはなかなかこういったものについての理解というのがない。どうして利用したらいいのかわからないといった方が大勢いると思う。そこでこういったものの広報、利用者へこういう利用ができますよというのは何回かいろんな方法で広報をしますよと言われてしまえばそれで終わるんですけども、もっと周知させる必要があるんじゃないか。誰もが本当に使いたいときに、この利用がいいなということ、本人が気がついたりあるいは周りの人が助言をしたりするようなことができれば、さらに使いたい人が使えるといったそういう需要があるんじゃないかなと思います。以上です。

事 務 局:岩屋線の導入の経過から説明させていただきますと、岩屋線は令和2年の10月から導入されました。当初ですけれども、こちらの路線については買い物利用等もあり始めの月は100人を超えた月もあり、たくさんの方にご利用いただけたということなのですが、その後地域の要望をお聞きしまして、あとは運行の車両回しとかの関係とかもありましたけれども、基本的に岩谷の路線に住まれている方々は、北部医療センターへ行きたいということが多かったです。そのような事情もありまして早朝のダイヤの方に乗り継ぎをして、北部医療センターの方に乗っていただけるようなダイヤ設定としております。なかなか病院利用となりますと、週何回ということもなく、利用回数も結構限られてくるように聞いておるんですけども、実際午前中の朝早い便となりますと、地域の買い物に行く時間というのはお店が開いてない時間というのがありますので、買い物に行かれる方は午後の便を利用するという使い分けになっております。最初の導入からダイヤ改正を行うにあたって、そこで利用者が

減少したのかなというところと、病院を利用される方でそのまま安定して乗っていらっしゃる方がいると見ております。

事務局：はいご意見ありがとうございます。情報提供の重要性について改めてご意見いただいたということでございます。資料の一番のスライドの 5 ページでも少しご紹介をさせていただいたり、これまでのこの交通会議でも度々ご意見をいただいている内容かと思えます。役場の方では、こういったカラー刷りのバス・鉄道時刻表っていうのは、年に 2 回ダイヤ改正があるたびに配布させていただいておりますけれども、今ご意見がありました通り、こういったものを配っただけで知ってもらうっていうものは、限界があるというふうに認識しております。これだけでいいと全然思っていないで、私のこれまでの経験上でいきますと、やはり地域に出かけていってしっかり伝えるだとか、地域の人たち同士で伝え合うみたいなことがないとなかなか広がっていかないだろうというふうに思っています。もっと他にもいいやり方があるかもしれませんけれども、こういった重要な取組はしっかりやっけていながら、皆さんに乗っていただける交通っていうものを目指すべきだろうと考えております。どうか皆様方のご協力をお願いしたいですし、私達事務局、役場の方もできる限り情報提供についても勉強させていただけたらと思っておりますので、引き続きお願いします。

会長：それでは 2 点目については社協の有償運送の点についてということでございました。社会福祉協議会の中田事務局長から、このサービスの利用についての情報提供という観点から、現在行っている取組でも、あるいは今後予定をしている取組でも結構でございますので一言、ご発言をよろしくお願ひしたいと思ひます。

中田委員：福祉有償運送の広報につきましては、社協の広報紙等で状況の広報をさせていただいておりますが、やはり紙面に限りもでございます。広報を年間に 3 回予定をしております、その中で紙面が限られてくる部分もでございますので、そちらについては毎回掲載をするということは難しいところがございます。しかしながら先ほどからもございましたように広報の必要性、やはり福祉有償運送を利用される方は、紙面での情報そういったものが SNS とかっていうよりも紙面の情報から得られる方が多いかと思ひますので、そういった視点でのお知らせにプラスして、あとは介護認定を受けておられる方もいらっしゃると思いますので、ケアマネージャーさんを通じてだとか引き続き利用していただきやすいような情報提供を心がけていきたいと思ひております。

会長：ありがとうございます。ただいまのご発言につきましては、今後も紙面などを通じて情報提供していくということでございましたが、対象者に対する適切なアプローチという観点で申し上げますと、私共の役場組織との連携も含めて行っていく必要があるだろうと認識をいたしました。その他いかがでしょうか？

委員：先ほど議題 1 の持続可能な公共交通の実現に向けてということにつきましては、事務局提案の通り承認されたわけですが、これを実施に向けて内容を詰めていくに当たりましては、できましたらこの会議の中に何か部会的なものを作りまして、そこで協議を進めていくというようなことをしていただいて、スピード感を持って実施に向けて取組ができると嬉しいなと思ひますので、その辺をご検討をお願いしたいと思ひます。

会長：ただいまの委員のご発言につきましては、今後の具体的な政策の立案についてどのような形で進めていくのかということでございました。この点につきましては、特に関係する方々もいらっしゃるということでございますし、議論の形というものにつきましては、私共の方で一旦整理をさせていただいた上で、できる限りスピード感を持った取組を進めていきたいと思ひておりますのでそのようにご理解いただきたい。

村尾委員：先ほど委員の方から要は知らないというお話がありました、よくある話です。全国的に見ても、使ったことがない交通を一度体験してみようという取組が至る所で行われています。ぜひ、今ありますコミュニティバスひまわりの無料の日、丹海バス無料の日をすることによって、普段使ってなくても今日無料やったら 1 回使ってみようかみたいな人が出てく

る。最近だと近江鉄道が一日無料で実施しましたが、もう溢れんばかりの人がやってきた。一体どこからこんなお客さんがやってきたんだっていうぐらい多くの人が利用されました。この沿線でも高齢者 200 円レールをやることによって地域の人たちが一緒になって、今度電車に乗ってどこか行ってみようか、そういう活動が結構あったと思います。ぜひこの町内にも魅力的な施設がいくらでもありますので、クアハウスもあれば、それこそ温浴施設もあるし、そういったところに地域の人たちがちょっと行くときにですね、少し何か支援のようなものがあつたら、みんなが集まって普段乗ってない日もありますが、乗ってみよう、そんな動きに繋がってくるんじゃないかなというふうに思います。ぜひ広報紙で、こういう使い方をすると 1 日楽しく過ごせますよ、加悦の温浴施設に行くにはどうしたら行けるとか、クアハウス岩滝にはどうやったら行けるとか、そんなものを少しお知らせするだけで、利用のきっかけになると思います。それによって皆さんが少しずつ知っていただけるようになって、体験するということがすごく大事だと思っています。全国的には運転手の体験というものもありまして、多分交通業者の方々はまだご存知かもしれませんが、運転手の体験をしてもらう、そんな取組をされている地域もごさいます。バスの運転手ってどんなふうにしてるんだろう、というのを実際に乗っていただくとか、タクシーの乗務員、そういう活動を既にやっておられるかどうか分かりませんが、そういう運転手予備軍をどういうふうに作り出していくんだっていうところで体験をするような場があります。今、地域に福祉有償の運転手がいらっやいます。この人たちももう少し頑張っていたら、もう一歩上の段階に進めるかもしれない。そういう意味も含めてその「体験をする」という機会を意図的に作り出していくっていうのは、これは非常に重要なこと。

それから先ほど来、色々な需要を束ねるとか、交通体系を作るっていうときにある意味で言うと、「一元化をしていく」ということが必要になってきます。ですから、この地域では WILLER さんと丹海バスさんは、観光の面では一緒になって企画切符を作っておられたりするわけですけども、こういったものを発展させて、本当は地域の公共交通どれにでも乗れるような、そういうサービスが多分理想形だと思う。25 年、30 年前からドイツの環境定期券という制度があります。これは月々 6000 円のお金を払うと、1 ヶ月地域の交通乗り放題そんなサービスがあるわけで、それを今デジタル化したものが、MaaS と言われるようなもので、スマートフォンで予約をしたら、地域のいろんなサービスが一元化できるそういうサービス。ですから非常にハードルが高いかもしれませんが、こういった地域で交通事業者とお互いが顔の見える関係にあるだけにこういったところ、町の方が一緒になって、ぜひ交通サービスの一元化っていうことを流れにのって、やっておくことが多分理想の形だと思います。そこに福祉有償運送みたいなのも何とか組み込んで、運転手も少ない、需要も少ないというしんどい中で、交通事業者だけで生きて行くのは大変厳しい時代になってきているのは間違いありません。

先ほど来、なんで 10 年前からこんなに利用が減ったんやろうっていうお話がありましたけどバスに乗って病院に行ける人っていうのは元気な高齢者です。だから、元気がなくなったらやっぱりそういう輸送サービスをお願いしないと仕方がないです。それだけにやはり高齢化もどんどん進んでいきますし、そういういろんなサービスと誰もが使える一元化をしていくという方法は、大きな方向性としてはきっとあると思うので、ぜひその後、部会がもしできるならどうすれば、本当にタクシーもバスもいろんなサービスで一元化して乗って行けるものに少しでも近づいていくんだらうということまで考えられるといいなと思いました。

会 長：ありがとうございました。様々な論点が生かされた発言であったのかなと思います。とりわけ公共交通の利用頻度の向上ということにおいては体験をするということが重要であるという話でありました。私どもそして現在公共交通を担っていただいている事業者の皆様方とともにそうした取り組みができるかどうかということも含めてどうする必要があるんだらうというふうに認識をいたしました。その他いかがでしょうか？

委 員：私は角度を変えて運転目線で見方を申し上げます。この資料の公共交通による地域内移動イメージ図のカラー刷りのものがあります。この中にすごく丁寧に示されていて、それぞれの役割ということで、電車、バス、タクシー、それから福祉有償運送の関係、そして地域という流れで説明されています。今日も皆様方が会場へ来るまでにバスというのを見ていると思いますが、乗継ぎをするときにここでの時間、接続数であるとかを事前に見て、バス待ちをす

るときに、都会の方では屋根のあるところで待てますが、この丹後地域の全体を見渡しても100%の整備がなかなか出来ない状況です。運転手からよくお聞きするのが、少しでも安全を確保した上で、お客様に待っていただいているところに時間、きちっと遅れなくつけていくというのが本来ではあるんですけど、雪があったり道路状況によって到着の遅れがある中で、お客様がバス停の屋根がない中で待つというようなところをよくお見かけします。なかなか厳しい状況ではあるとは言いながら、そういったところの乗り継ぎ拠点、ここのピンク色でこうマークをしたところというのが、大体地域の人が集まって行きやすい部分だと思います。それから新しい交通タクシーとかでもそういったところでそれぞれの役割をきちんとした上で、そういう待つ場所っていうところをもう少し考えていただくと、利用促進にもつながると思います。皆様方の理解をもらいながら、役割を考える上で、そういう部分も少し考えていただいてもいいのかなと思っております。

会 長：ありがとうございます。ただ今は特に公共交通を利用される方の乗りやすい環境整備という観点からご意見をいただいたものじゃないかなと思います。先ほど結節点となる場所における環境整備ということもありました。例えば冒頭でご説明させていただいたスライドの10ページにおきましては便利で快適な、の例ということで、例えば先ほどのご指摘があった結節点、待合環境が快適であるべきであるということでありましたり、様々なご意見がありました。その辺も含めて、一步一步ということになろうかと思いますが、できる限り環境整備に向けて尽力をしていくことが必要であろうと思っておりますので、我々としてもご意見を承りたいと思います。その他いかがでしょうか？

それでは皆様方のご意見も尽きたようでございますので、本日ご出席をいただいている運輸支局の稲留専門官に改めてご意見、所感のほどお伺いをさせていただきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

稲留委員：活発なご議論ありがとうございます。私から最後コメントさせていただきます。本日議題の1ということで非常に大きな今後の与謝野町の交通の方向性ということで、方針が示されまして、ご議論いただいて承認いただいたところでございます。事業者と地域の住民の方々々がタグを組んでフィーダー輸送と言わゆる枝となる部分といたしますけど、フィーダー輸送を担っていただくということになります。今回承認をいただいたわけなんですけども、本来であれば交通事業者の皆さんが自分たちで何とか全体をカバーしたかったという思いが強いというふうに思います。そういった中で今回こういった議案が発せられました。事業者としてもある意味、苦渋の決断といたしますか、運転手が足りなかったりコロナの関係で経営が苦しいと、いろいろそういった環境の中で、苦渋の決断をいただいたというところでございます。しかしながら、引き続きバスであったりだとかタクシーであったりだとか、鉄道も含めて、公共交通の重要性みたいなのは、何らこれまでと変わることはございませんので、皆様の今ある交通を使うというところも含めて、交通事業者と住民の皆様、あるいは色々な事業者、こういったところをきっちりタグを組んだりですね、先ほど村尾委員からもリアルな移動が街を元気にするんだというような発言もございました。まさしくその通りだと思いますので、皆さんで協力いただいて、私もこの協議会の一員でございますので、一緒になって考えていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。以上でございます。

会 長：稲留専門官ありがとうございます。本日の会議の取りまとめを行っていただいたのかなと思います。それでは本日、それぞれの議題の中で承りましたご意見について、十分尊重させていただきながら、今後の公共交通体系のあり方について具体的にお示しをさせていただく。そうした時期が早々に来るといってございまして、そういうふうにご理解を賜りたいと思っております。それでは皆様方におかれましてはスムーズな議事の進行にご協力をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。事務局にお返しいたします。

4. 閉会

事務局：ありがとうございます。今後についてでございますけれども、先ほど会議の中で西村副会長のご意見があったり、会長の方でもまとめていただきましたけれども、進めるにあたって、事務局だけでアイデアを考えて皆様の方に逐一出向かさせていただいて調整するというこ

とではなく、やはり皆さんで進めていきたいなという基本的な考え方を持っております。

また、ワーキングチームというご提案がありました。一旦引き取らせていただいてどういった形ができるのかっていうのは検討させていただきたいと思いますが、繰り返しになりますけれども、ぜひ皆様と一緒に決めていきたいという基本的な考え方がございます。どうかご理解とご協力を頂戴したいと思います。頑張って参りますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。次回の会議ですけれども、ある程度皆様等の議論を調整させていただいた結果を持ってもう少し議論を進めていただきたいということと併せて、交通計画というものを作っていくという、もう一方のミッションもございしますので、こちらにつきましても引き続きご協力をお願ひしたいと思ひます。日程につきましてはまだ決めておりませんが、改めてご案内させていただきますので、ご出席いただきますようよろしくお願ひして、今日は終了させていただきます。気をつけてお帰りください。ありがとうございました。